

令和4年度 第1回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

日 時 令和4年7月13日(水) 14時00分～
場 所 鳴門市うずしお会館2階 第2会議室
出席者 委員12名、関係課・事務局職員 9 名
欠席者 委員4名
傍聴者 1名

概 要

1. 開会
2. 審議会委員の紹介

議事

(1)本市の教育の現状および課題について、(2)見直しに係るスケジュールについて、事務局から説明を行いました。

(委員)

旧大津西幼稚園の閉園後の利活用について、幼稚園として利用される可能性があると感じているが、どうなのか。

(事務局)

旧大津西幼稚園については、地域から「就学前教育・保育施設としての施設活用」についての要望書が提出されており、公私連携法人として「公私連携幼保連携型認定こども園」の運営を希望する民間法人を募集している状況である。

(委員)

「学校運営協議会(コミュニティ・スクール)」について、令和4年度4月から本格的に開始され、昨年度までは「学校評議員」であったが、「学校運営協議会委員」となり、評価するだけでなく、運営していくことになったが、どのような形で、どこまで学校運営に関わればいいのか。

(事務局)

「学校運営協議会(コミュニティ・スクール)」は令和4年4月から開始され、地域とともに学校を運営していくというものである。

主要なテーマとして「防災」、「目指す子ども像」があり、「地域の人」から広くご提案、ご意見をいただき、地域とともに学校を運営していきたいと考えているので、忌憚のないご意見をい

を出していただき、引き続き学校運営にご協力いただきたい。

(委員)

旧大津西幼稚園が閉園となったため、第一幼稚園へ通学している家族がいるが、来年小学生になり、大津西小学校へ行くことになる。大津西小学校に来年入学する児童は少ないと思われるため、第一幼稚園の近くである、第一小学校へ入学できないかと考えているが、来年大津西学校へ入学する児童数は何人いるのか。

(事務局)

幼稚園の校区については、令和3年度から廃止されており、大津西小学校校区にいる児童が第一幼稚園に通学しているという理由で、近くの第一小学校へ通学できるわけではなく、原則校区である、大津西小学校へ通学していただくことになる。令和5年4月に大津西小学校へ入学予定の児童については、6月末時点で10名である。

(委員)

「ヤングケアラー」について、社会的に問題である中で非常に発見しにくいものとなっているが、学校の先生が一番気づきやすいと考えている。「家庭個人の問題」としてだけでなく、「社会全体の問題」として捉えることが重要である。「ヤングケアラー」の「支援条例」を策定している自治体が全国で9団体ほどあり、支援条例の策定検討などについて、計画に盛りこむなど、市全体で考えていくべきだと思う。

(会長)

「ヤングケアラー」については「教育振興計画」に記載し、市として問題に向き合い、対応していくということが重要である。

(委員)

幼稚園の閉園、R3年度からの幼稚園通園区域廃止により、別の地区から一つの幼稚園に通園することとなったため、子どもによって水泳帽の色が違うことが散見されている。小学校においても色の指定があり、色によっては幼稚園の水泳帽が使用できないことがあると思われるため、市内すべての幼稚園および小学校における水泳帽の色の統一をしてほしい。そうすれば、買い替えることもなく、お金の節約にもなる。

(会長)

幼小中の円滑な連携が重要である。

(委員)

「高度情報化社会」について、高齢者が ICT 対応できるよう施策を推進してほしい。

「板東谷川」が決壊するなど、自然災害が発生した場合の災害対策において、小学校などとの連携を充実してほしい。

(委員)

9 ある課題を解決するため、どのような施策を実施していくのかについて、理解しにくい部分がある。例えば、「(4)家庭や地域を取り巻く環境変化への対応」における、「子どもの貧困、ヤングケアラー」の問題解決において、施策がわからない。市、地域、学校が連携し、何ができるのかを把握した上で、それに伴う課題を列挙し、施策を考える必要がある。

「第二期鳴門市教育振興計画」策定時にも委員として参加し、「課題に対する施策が対一という関係」の構図で計画を策定したが、「子どもの貧困、ヤングケアラー、学力向上」の問題を解決するには、それぞれの課題をバラバラに考えるのではなく、一体として捉えることが重要である。別の課題のように見えて、そこには連動した課題が存在する。その連動した課題に対して施策を講じないため、新たな問題課題が発生する度に新たな施策を検討していかなければならない。また、地域と学校がどのように連携していくのかについて考え、施策を講じる必要がある。

(会長)

施策を縦関係ではなく横断的に考える必要がある。学力の問題においては、ソーシャルワーカーなどの福祉関係、または人権関係など、様々な観点から、子どもが勉強する機会をどのように増やしていくのかについて考えていく必要がある。

(委員)

「学習指導要領」が改訂されたとあるが、何が変更されたのかについて、具体的にはわからない。学校現場を身近に感じられるよう、市民が学校訪問できる機会を作ってもらいたいと思う。

また、「北灘町」には小中学校がなく、「北灘町の市民」に対しても「開かれた教育」として、生涯学べるように施策を考えてほしい。

(会長)

「オープンスクール」など「生涯学習」として市の考えを示し、「繋ぐ教育」を検討していく必要がある。

(委員)

他の委員と同様に、園児の話から進学する小学校により水泳帽の学年色が異なることを知

り、また中学校においては、プールで溺れた時に即座に見つけやすいよう、何色の水着でも構わない規定となっており、非常に感心した。

教室にはエアコンが整備されているが、体育館へのエアコン整備も検討していただきたい。

(委員)

「学力の結果」が悪く、「学力の向上への取組」において課題、取組を示しているが、具体的な「数値」目標の設定を行い、その上で取組の方向性を示し、「学力向上」へ取り組むとともに、鳴門市の子どもを「全国で通用する人材」へ育ててほしい。

また、今後、堀江北小学校、堀江南小学校が統合される予定があるのかについて、教えてほしい。

(事務局)

「学校づくり」という観点では、生徒数が少なくなり、複式学級になるなど、統合条件が発生する場合には、地域と協議検討した上で統合するということもあるが、現在、堀江北小学校と堀江南小学校についてたちまち統合する予定はない。

(委員)

「9つの課題」があるが、少し多いように感じるので、もう少し課題を絞り鳴門市として、重点的に取り組む施策を打ち出した方がいいのではないか。

本市における今後4年間の大きな課題は、「人口減少・少子高齢化社会における教育」、「学力向上への取組」と考えている。「コミュニティスクールの学校運営協議会委員」で堀江南小学校の授業を参観したが、1年～2年生、3年～4年生が複式学級であり、学校においても「学力向上」できるかどうか不安を抱いている状態である。児童数が少ないのは承知しているが、出来れば「学力向上」のために複式学級を解消できないか検討してほしい。

また、「堀江南地区」における人口減少問題を解決するには、「市街化調整区域」の指定を変更し、若い人が住める街とし、若い人の人流を増やす必要があると考えている。市において、国県と協議しながら、この変更に向け前向きに検討してほしい。

親へのアンケート調査結果では、「学力を伸ばしてほしい」という意見が多くを占めている。

R4年の「全国学力調査結果」はどうだったのか。

(事務局)

R4年度「全国学力調査」の結果については、まだ出ていない。県の「ステップアップテスト」の今年度結果については、昨年度と同様で県平均よりも低く、学力分布についても昨年度と同様で、正答率40%以下の児童生徒の割合が高くなっている。

子どもたちの「学力保障」が大きな目標の一つであり、目標を達成するために、学力テストの詳細な分析を実施し、小学校1年生からの「授業づくり」を充実させるとともに、「子どもたち

の学ぶ意欲、学習習慣」を高めるため、「キャリア教育」を実施し、「学ぶ意味」を理解してもらう必要がある。

(委員)

重要と考える点が3つある。

1つ目は、「我慢する、最後までやり抜く、人の話を聞く、靴を揃える」など数値化されない生活面における「非認知能力」であり、保育所・幼稚園の時から重要視してほしい。

2つ目は、「国語の学力」である。「国語の学力」はすべての教科、すべての学力の基盤になりうるものと考えられ、読解力、語彙力を強化してほしい。

3つ目は、「二学期制」についてである。市としては、「二学期制」は続けていくのか。

「二学期制」を採用している学校は少ないと思われる。市として、アンケート調査を実施し、検討する必要があるのではないかと。短いスパンで教育を受ける方が子どもにとってはいいのではないかと。

(事務局)

「二学期制」については、教職員、保護者にアンケート調査を実施し、その結果、三学期制のメリットを取り入れながら二学期制を続けていくこととした。

「二学期制のデメリット」としては、通知表を渡さないため、一学期の反省をしないまま夏休みに入ることと思われるが、その点を補うため、夏休み前に個人懇談を実施し、一学期を振り返り、夏休みに何を実施するのかなどについて話し合い、夏休みの過ごし方に活かしている。